



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/06/13
SDS整理番号 16181150

製品等のコード : 1618-1150、1618-1160

製品等の名称 : 無水フタル酸 (1,3-イソベンゾフランジオン)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
フタル酸系可塑剤 (DEHP, DBP等) 原料、
不飽和ポリエステル樹脂原料、塗料樹脂原料、
染料・顔料中間物 (フタルイミド、フタルニトリル、アントラニル酸、
o-ベンゾイル、安息香酸) 原料、有機ゴム薬品 (スコーチ防止剤) など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
自然発火性固体 : 区分に該当しない

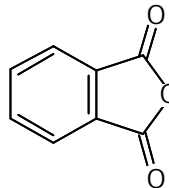
健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない [区分3(国連GHS分類)]
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
呼吸器感受性 : 区分1A
皮膚感受性 : 区分1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (呼吸器)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報
飲み込むと有害 (経口)
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
吸入するとアレルギー、ぜん (喘) 息又は呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き
【安全対策】
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。



取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

湿気、直射日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	無水フタル酸
	:	(別名) 1,3-イソベンゾフランジオン、フタル酸無水物、 1,2-ベンゼンジカルボン酸無水物、 1,3-ジヒドロイソベンゾフラン-1,3-ジオン、 イソベンゾフラン-1,3-ジオン
	:	(英名) Phthalic anhydride (EC名称)、 1,3-Isobenzofurandione (TSCA名称)、 Phthalic acid anhydride、 1,2-Benzenedicarboxylic acid anhydride、 1,3-Dihydroisobenzofuran-1,3-dione、 Isobenzofuran-1,3-dione
成分及び含有量	:	無水フタル酸、 99.5~100.3%
化学式または構造式	:	C6H4(CO)2O、 C8H4O3、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	148.12
官報公示整理番号	:	(3)-1344
化審法 労安法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	85-44-9
EC No.	:	201-607-5
危険有害物質	:	無水フタル酸

4. 応急処置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 呼吸に関する症状が出た場合は、医師に連絡する。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：

吸入：咳、咽頭痛、喘鳴
 皮膚に付着：発赤、痛み
 眼に付着：発赤、痛み
 経口摂取：腹痛

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本製品は可燃性である。
 粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
 特有の危険有害性：火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
 特有の消火方法：危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、
 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 ：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項
 回収、中和：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
 ：危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策
 ：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 粉じんの堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気
 安全取扱い注意事項：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 裸火禁止。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避
 保管：湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
 技術的対策：保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件：直射日光や高温多湿を避けて保管する。
 湿気を避け、乾燥した場所に保管する。
 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
 必要に応じ施錠して保管する。
 容器を密栓する。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質
 容器包装材料：強酸化剤、強酸、強塩基、還元剤
 ガラス、ポリプロピレン、ポリエチレンなど。
 水存在下では多くの金属を腐食するので、金属容器は避けた方がよい。

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ○：良好 △：やや良好(条件による) ×：不良 -：データなし 】

スチレンゴム - クロロプレンゴム(ネオプレン) ニトリルゴム ブチルゴム
 天然ゴム - シリコンゴム - フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン
 軟鋼 ステンレス (SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
 軟質塩ビ 硬質塩ビ ポリスチレン A B S ポリエチレン ポリプロピレン
 ナイロン アセタール樹脂 アクリル樹脂 ポリカーボネート ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 未設定
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	
日本産衛学会	0.33ppm 2mg/m3 (Ceiling: 最大濃度)
ACGIH	TLV-TWA 0.002 mg/m3 (Inhalable Fraction and Vapor)(Skin) TLV-STEL 0.005 mg/m3 (Inhalable Fraction and Vapor)
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶 - 結晶性粉末またはフレーク
色	: 白色
臭い	: 特異臭(刺激臭)
pH	: 約2(飽和水溶液、20)
融点	: 131 ~ 133
凝固点	: データなし
沸点	: 284
引火点	: 152 (密閉式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: 下限 1.7 vol % 上限 10.4 vol %
蒸気圧	: < 0.3 Pa (20)
相対ガス密度(空気 = 1)	: 5.1
相対密度	: 1.53 (15/4)
比重	: データなし
溶解度	: 水にほとんど溶けない(0.6g/100mL、25)。 熱水と接触すると分解し、フタル酸を生じる。 水に徐々に反応し、フタル酸に変化する。 メタノール、エタノール、トルエンに溶けにくい。 アセトンに溶けやすい。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 1.6
発火点	: 570
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
自然発火性固体	: 常温の空気と接触しても自然発火しない(発火点570 (ICSC(J),2003)) ことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)	: 通常取扱条件において安定である。 熱水と接触すると分解し、フタル酸を生じる。 高温の熔融無水フタル酸は発火し易い。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤、強酸、強塩基または還元剤と混触すると激しく反応することがある。 湿気、水の存在により腐食性のフタル酸に変化し、

多くの金属を侵す。
 粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。
 避けるべき条件 : 湿気、日光、高熱
 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、強塩基、還元剤、金属
 危険有害な分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを生成する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 1530 mg/kg (SIDS (2005))
 飲み込むと有害 (経口) (区分4)
 経皮 ウサギ LD50 > 10000 mg/kg
 区分に該当しない。
 吸入(ガス) 区分に該当しない。
 吸入(蒸気) 分類できない。
 吸入(粉じん) 分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギの皮膚に試験物質550 mgを4時間の半閉塞適用した試験 (OECD TG404) において、平均皮膚刺激指数1.21で軽度の刺激性 (slightly irritating) (SIDS (2005))、また、ウサギの皮膚に500 mgを水で湿らせ24時間の半閉塞適用による別の試験では皮膚刺激指数 (PDII) が1.5で軽度の刺激性 (slightly irritating) (SIDS (2005)) がそれぞれ報告されていることに基づき、区分3とした (国連GHS分類)。ただし、分類JISでは区分に該当しないである。
 軽度の皮膚刺激 (区分3)
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : ウサギの結膜嚢に未希釈の試験物質50 mgを適用した試験において、角膜、虹彩、結膜に刺激性がみられたが、7日間の観察期間内に結膜発赤を除き全て回復し、中等度の刺激性 (moderately irritating) との評価 (SIDS (2005))、また、別の試験でウサギの結膜嚢に未希釈の試験物質100 mgを適用により、24~72時間の平均スコア (AOIに相当) は71~81を示し、刺激性あり (irritating) との評価 (SIDS (2005))、さらにウサギの眼に未希釈の試験物質100 mgを適用した試験では、平均スコア (AOIに相当) は24時間において59.2で刺激性あり (irritating) との評価 (SIDS (2005)) が得られている。以上の各試験での刺激性スコアを含む評価結果に基づき区分2Aとした。
 強い眼刺激 (区分2A)
- 呼吸器感受性 : 無水フタル酸 (PA) を扱う工場で作業時に発生する粉塵にばく露された作業者118名中、鼻炎は28名 (24%)、慢性気管支炎は13名 (11%)、喘息は21名 (18%) が報告され、喘息はばく露後0.1-16年で発症している (産衛誌第40巻 (1998))。一方、ポリエステル樹脂の生産に従事した労働者の調査では、高ばく露 (1500~1740 µg/m³) 群の労働者の46%が結膜炎、40%が鼻炎、14%が喘息を発症している (CICAD 75 (2009))。本物質は、喘息とアレルギー性鼻炎の最初の事例が1939年に報告されて以来、呼吸器感受物質として知られている (SIDS (2006))。日本産業衛生学会では本物質を気道感受性物質の第1群に分類している (産衛誌第53巻 (2011)) ことから、区分1Aとした。
 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ (区分1A)
- 皮膚感受性 : モルモットを用いたマキシマイゼーション試験 (陽性率90%) とビューラー試験、およびマウスを用いた局所リンパ節試験の結果はいずれも感受性あり (sensitizing) となり陽性 (SIDS (2006)) を示した。ヒトでは本物質を含むエポキシ樹脂処理工場の作業者191人にパッチテストの結果、本物質に対するアレルギー反応が14%の作業者で観察され (SIDS (2006))、また、皮膚科診療所で治療を受けていたエポキシ樹脂過敏症の患者99人中7人 (7%) がパッチテストで本物質に反応した (DFGMAK-Doc.25 (2009)) と報告されている。さらに、本物質はContact Dermatitis (Frosch) により接触アレルギー物質に分類されている (Contact Dermatitis (Frosch) (5th, 2011)) ことに基づき、区分1とした。
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分1)
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
 なお、in vitro試験として、エームス試験で陰性 (SIDS (2005)、NTP DB (2012))、CHO細胞を用いた染色体異常試験では一部に陽性の報告 (SIDS (2005)) があるものの概ね陰性 (NITE初期リスク評価書 Ver.1.0 No.120(2008)、NTP DB(2012))、マウスリンパ腫細胞を用いた遺伝子突然変異試験では陽性 (NTP DB(2012)) がそれぞれ報告されている。
- 発がん性 : 区分に該当しない。
 ACGIHの発がん性評価でA4に分類されている (ACGIH (2001))。また、ラットおよびマウスに2年間混餌投与した試験において、両動物種とも生存率に影響なく、投与に関連付けられる腫瘍の発生もなく、

生殖毒性	: 当該試験条件下では本物質に発がん性はないと結論されている (NTP TR159 (1979))。 : 分類できない。 なお、本物質ではないが、フタル酸を妊娠ラットに混餌投与した催奇形性試験において、母動物毒性 (体重増加抑制) がみられる極めて高い用量 (3,000 mg/kg/day) において胎児にわずかな影響 (尾椎の骨化遅延) が報告されている (SIDS (2006))。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 本物質は、気道刺激性を示す (環境省リスク評価第2巻: 暫定的有害性評価シート (2003)、ACGIH (7th, 2014)、CICAD 75 (2009)、DFGOT vol. 25 (2009)、SIDS (2006))。ヒトにおいては、高濃度のガス状の吸入ばく露で、呼吸器障害、粉塵等の吸入ばく露で、頭痛、めまい、吐き気、心窩部灼熱感、窒息感が報告されている (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1998)、SIDS (2006))。実験動物では、経口投与500 mg/kgで、鎮静、ふらつきの報告がある (SIDS (2006))。 以上より、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。 呼吸器への刺激のおそれ (区分3) 眠気又はめまいのおそれ (区分3)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ヒトに対し本物質は蒸気、煙霧、粉塵の状態で粘膜および上気道を刺激し、反復または継続的ばく露により、気道の炎症、鼻粘膜の潰瘍形成と出血、粘膜の萎縮、嗅覚消失、嘔声、気管支炎などをもたらす (SIDS (2005)) との記述に加え、事例として、アルキド樹脂などの製造工場では本物質を取り扱っていた作業員の調査結果では、取り扱い時に本物質の気中濃度が高くなるとともに、鼻炎、上気道の炎症、慢性気管支炎などの呼吸器障害の発症が多くなった (NITE初期リスク評価書 Ver.1.0 No.120 (2008)) との報告により、区分1 (呼吸器) とした。 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害 (区分1)
誤えん有害性	: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性 短期(急性): 区分に該当しない。 魚類 (メダカ) 96時間LC50 > 99 mg/L (環境省生態影響試験, 2003)
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない。 急速分解性があり (良分解性 (2週間でのBODによる分解度: 85.2%) (既存点検, 1976))、魚類 (ニジマス) の60日間NOEC = 10 mg/L (SIDS, 2005) であることから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	: 良分解性。BOD分解度 = 85.2%
生物蓄積性	: 低濃縮性。BCF = 5
土壤中の移動性	: 高移動性。Koc = 10
オゾン層への有害性	: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考) (1) 燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。 (2) 活性汚泥法 生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
汚染容器及び包装	: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号: 156

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2214
Proper Shipping Name : PHTHALIC ANHYDRIDE
Class : 8 (腐食性物質)
Sub risk : -
Packing Group : III
Marine Pollutant : No (非該当)
Limited Quantity : 5kg

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2214
Proper Shipping Name : Phthalic anhydride
Class : 8
Sub risk : -
Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報 (特段の規制なし)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2214
品名 : 無水フタル酸
クラス : 8
副次危険 : -
容器等級 : III
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y (無水フタル酸)

少量危険物許容量 : 5kg

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2214
品名 : 無水フタル酸
クラス : 8
副次危険 : -
容器等級 : III
少量輸送許容量 : 5kg

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
必要に応じ移送時にイエロカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物
(政令番号 第553号「無水フタル酸」、対象重量%は 1)
名称等を通知すべき危険物及び有害物
(政令番号 第553号「無水フタル酸」、対象重量%は 0.1)
(別表第9)
(注) 令和7年4月1日以降、政令番号: 規則別表第2の1976に変更
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の
使用義務物質「皮膚刺激性有害物質、皮膚吸収性有害物質」
「無水フタル酸、対象重量%は 1」
(安衛則第594条の2)

なお、がん原性物質に非該当
(安衛則第577条の2)

化審法 : 旧第二種監視化学物質 No.1081 (官報公示日: 2010/04/01)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)
: 種別 「第1種指定化学物質」
: 政令番号 「1-467」
: 管理番号 「413」
: 政令名称 「無水フタル酸」

消防法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当

船舶安全法	:	腐食性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	:	腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	:	有害液体物質 Y類物質「無水フタル酸」 (施行令別表第1)
輸出貿易管理令	:	キャッチオール規制 (別表第1の16項)
		HSコード: 2917.35
		第29類 有機化学品
		・輸出統計番号 (2024年1月版): 2917.35-000
		「ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
		- 芳香族ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体: 無水フタル酸」
		・輸入統計番号 (2024年4月1日版): 2917.35-000
		「ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
		- 芳香族ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体: 無水フタル酸」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:		
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ		化学工業日報社	
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ		化学工業日報社(2007)	
化学物質の危険・有害便覧		中央労働災害防止協会編	
化学大辞典		共同出版	
安衛法化学物質		化学工業日報社	
産業中毒便覧(増補版)		医歯薬出版	
化学物質安全性データブック		オーム社	
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)		三共出版	
化学物質の危険・有害性便覧		労働省安全衛生部監修	
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances		NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース		nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)	HP
GHSモデルMSDS情報		中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター	HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。